

日経平均株価

2万0418円81銭  
▲13円16銭(前日比)

TOPIX

1485. 29

▲ 1. 44 (前日比)

# 証券市場新聞

2019  
3/19  
月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL. 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861



# 1Q好決算銘柄ピックアップ

# 大幅増益のヨコオやカプコンなど



下方修正相次ぐなか好決算は目立つ  
増へ、営業利益  
で18億700  
0万円から21  
億5000万円  
(同49・9%  
増)へ上方修正。  
IR・SRコン  
サルが順調に推  
移。自己株式取  
得枠の設定も支  
援。  
力プロコン(9)

U  
W  
M  
A  
A  
B

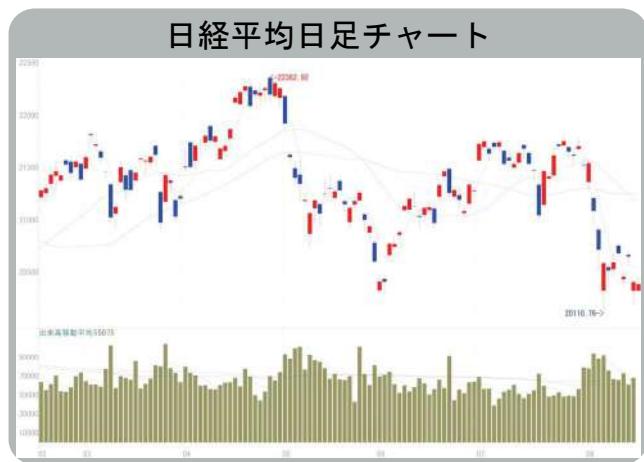
ヨコオ(6800)：20年3月期の通期予想を連結売上高で580億円から585億円（前期比6・8%増）へ、営業利益で36億5000万円から40億5000万円（同3・7%増）へ上方

修正回路検査用コネクタと無線通信機器が大幅に伸びている。

1四半期  
利益で7  
万円(前年  
0・8%)  
増益。リ。ト  
ルが利。ダ  
ウンロード販  
売の伸長によ  
り利

## 調整場面を拾え！

20年3月期の第1四半期(4~6月)決算発表がほぼ一巡した。米中における貿易摩擦の激化や急速な円高などにより、先行き不透明感が増していることを反映して、輸出系を中心に大幅な減益や業績予想の下方修正が相次いでおり、全般相場の上値を重くしている。そのような状況下で好決算や上方修正銘柄はより一層目立つ結果になつており、急伸で高値を更新する銘柄も少なくない。不透明感が継続するなかでは、これら好業績銘柄の調整場面を拾うのも一法だ。



marketpress



リンクアンドモチベーション（2170）がストップ安。19年12月期の業績予想を通期連結売上収益で425億円から385億円（前期比3・6%減）へ、営業利益で45億円から18億8000万円（同50・9%減）へ下方修正した。売上収益の約30%を占める組織開発D i

# INK & M STOP 安

Vでヨンサル・アウ

豆蔵1Q営業益  
2.1倍

13日、豆藏木一  
ルディングス（37  
56）が大幅高で年  
初来高値を更新。2  
0年3月期第1四半  
期の連結決算で、當

# イーレクス大幅増収益 17)が続騰。 20年3月期 第1四半期決算は、連結売上高159億5,600万円(前年同期比27%増)、営業利益19億2,600万円(同1・5%増)と大幅増収増益となつた。電力小売

事業で販売電力量が順調に増加している。

事業で販売電力量が順調に増加している。WSCAPE営業赤字 14日、ダブル・スクープ(6619)が大幅続落、年初来安値を更新した。1年12月期の業績予想について、連結売上高で175億円から130億円(前期比48・9%増)へ営業損益で8億円の黒字から26億円の

DSは今期上方修正  
14日、ダブルズ  
タンダード(392  
5)が大幅反発。2  
0年3月期の業績予  
想を連結売上高32

（前期比26・6%増）  
営業利益10億400万円から11億円  
(同27・0%増)へ  
上方修正した。

反落。20年6月期 億2100万円（前年同期比11・5%増）と2ケタ増益を見込んで、コンセンサスを下回った。ハウスク・リースバックやリバースモーテージの強化により一段の業績拡大を見込む。

で新値を追い、レーザテク（6920）やギフト（9279）も水準を切り上げてます。花咲翁



6日の東京市場は朝安後に戻す動きでした。時間外の米株価指数先物高や米10年債利回りの上昇、上海市場も戻したことことが下支えしていますが、方向感に乏しい展開です。この数日は日中の値動きが堅調でも大引け後の欧米市場の取引開始前かセツションすることができます。これまで買戻しを飛ばす銘柄を体関連の一を飛ばす銘柄が目立つなど、個別に物色意欲は衰弱に物色引き続き強いています。

カプコン(96)が堅調で18年8月の最高値3045円トライに注目。

## 今週の動意銘柄

業利益が6億5600万円（前年同期比

13日、東邦

東邦鉛相場下落で減額  
安値を更新した。  
東邦（5707）

# ～決算情報～

## フジコー

**第1四半期は2.2%增收  
エネルギー資材が大きく増える**

フジコー（3515）の20年3月期の第1四半期（4～6月）決算は連結売上高20億7100万円（前年同期比2.2%増）、営業損益3000万円の赤字（前年同期4600万円の赤字）、最終損益8000万円の赤字（同2100万円の赤字）となった。

建装資材の販売がカーペットが使用される展示会場の面積縮小の影響を受け減少したが、エネルギー資材は大きく増加。工業資材については、販売面で連結子会社の売り上げが減少したものの、自動車資材の販売は堅調に推移。一方、材料費増加が利益を圧迫している。

通期は連結売上高93億円（前期比5.2%増）、営業損益1億円の黒字（前期7300万円の赤字）、最終損益1億円の黒字（同6億1900万円の赤字）の黒字転換予想を据え置いている。

開発帝石(1605) 15日、国際石油  
石油資源開発(16)  
62)の資源開発関連株が軟調。米長短金利逆転で世界景気後退への警戒感が高まるなか、原油市況も急速に軟化、WTI原油先物価格が1ドル87セント安の1バレル＝55ドル23セントと急落しており、シェブロンやエクソンモービルなどエネルギー関連

株が大幅安となつた。市場が波及した。市況悪化に伴う収益への影響が懸念され、JXTGホールディングス（5020）や出光興産（5019）の石油元売りにも売りが広がつた。

5億円（前期比3・0%減）、営業利益で36億1000万円から43億4000万円（同3・1%減）へ上方修正した。オーケストラ未達警戒

## ベネフィット67%増益

## 東証全市場で上昇率トップ

ベネフイ ットジヤ  
パン(3) 934) が東証全  
市場で上昇率トツ  
プで年初來高値を  
更新。2期の第1四半期決  
算売上高100万円  
比34・ 営業利益

ベネフィットJPの日足チャート



比 8  
営業利益 5  
0万円 (前期  
%増)、  
据え置いた。  
「ON」  
0万円 (同  
10%増)  
は L W Y  
と S E M  
の P o b i l e  
N t e Y o b i l e  
S p L o b i l e  
n s e Y o b i l e  
な p d y o b i l e  
ど t e M o b i l e  
s t e M o b i l e  
へ o p y o b i l e  
ビ o d y o b i l e  
ュ o b y o b i l e  
ー o b i l e  
Y o b i l e  
ー o b i l e  
P l a n  
C u s t o  
a n  
大  
きく会員数を伸ばた。

## 債券バブル

度重なるトランプ砲により、すっかりトランポリン相場となってしまった感のあるストックマーケット。先週は大揺れの展開でした。中国、ドイツの景気指標の悪化により、リスク回避による株売り、債券買いが急激に起こりました。気が付くと日本の長期金利より深堀したマイナス金利国のなんと多いことでしょう。一種の債券バブルです。各国で景気後退シグナルとなる逆イールド現象が起こっています。

しかし、景気後退にはタイムラグがあるというのが経験則です。先週で第一四半期決算がほぼ出そろいました。上場企業全体の純利益は前年同期比15%減となり、米中対立の影響が明らかになりました。中でも製造業の不振は明らかで45%減益です。こうなると通信などの内



需型企業に目を向けるほかありません。Kudan(4425)に注目しております。

日々勇太朗

## 転ばぬ先のテクニカル

## ユニゾHD日足チャート



週末16日、ユニゾホールディングス（3258）が急伸、年初来高値を更新した。エイチ・アイ・エス（9063）から、敵対的TOBへの対抗案を検討していることが伝わった。

## 対抗案でTOB価格引上げ期待

は別にT O Bを実施する方向で最終調整しているという。フオートレスは週明けにもH I Sが提案し

ているTOB価格3100円を上回る条件で、TOBを開始する見通しで、TOB価格引き上げへの期待から買いを集めた。一方、HISも買収撤回による財務負担軽減の思惑から上げに轉じた。

年始からの動意銘柄

# 半導体2銘柄格上げ

16日、S C R E E N ホ  
イルディングス(7735)と東京エレクトロン(80)の半導  
体関連2銘柄ともに両銘柄が買われた。三菱U・F・Jモ  
ービル、円高目標株価スワルング証券がスターモービ  
ルへはて、円から株価スワルングが三菱ガラスレン  
タル・フレンチ・エヌ・エー(7635)の半導体関連2銘柄  
ともに両銘柄が買われた。

へ引き上げた。予想以上に強い5G関連需要や、日韓の半導体材料問題などによって予想よりメモリ市況が早く底打ちする可能性など、状況が好転してきたことを指摘している。

# 購読会員募集中！

**証券市場新聞では、購読会員を募集しています。**

# 高野恭壽の 株式情報 これでどや!!

大阪で600人越えの集客を記録、アンケート調査で「是非聞きたい講師」全国第1位  
人気株式評論家 高野恭壽の株式マガジン！

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

証券市場新聞 公式メールマガジン

優良銘柄に加えて新興銘柄のタイムリーな限定情報が満載！

<https://www.mag2.com/m/0001678061.html>

潮流

# 再び買いチャンス到来!!

## 強烈なりバーサル相場へ



8月14日の米ダウ平均は800ドル安と今年最大の下げ幅となつた。米長

期金利が急低下し、10年債利回りが2年債を逆転する「逆イールド」が12年ぶりに発生。香港の大規模デモや大統領選挙の結果からアルゼンチンの株価指数が暴落したことなどを売りの理由に景気後退を懸念している。

確かに、現在は売り材料には事欠かないが、指摘されている売り材料は、実体経済への影響がどれも限定的である。結局、お決まりのパターンで再度、強烈なりバーサル相場が発生するだろう。8月からの急落相場は、米中貿易摩擦を材料にした、売り投機の活発化で需給相場が発生しているだけの話である。金融緩和に過度に依存する経済政策が逆にボラティリティ（変動率）の低下と、その後の急騰をもたらしていることは、既にボラティリティをリターンの収益の源泉にしているヘッジファンドには常識となっている。

また、金利が低下し、イールドカーブが逆イールドになれば、景気後退だと解説をするが、実体経済や経済政策によるマーケット変動をもたらす環境変化について全く理解していないということである。過剰流動性相場ゆえに需給相

場が逆に発生しやすくなっているのだ。このことが意識できれば、なぜ米国では物価連動債が堅調なのかもわかる。景気後退を本当に市場が意識しているなら、総需要が縮小することによる不況型の需給ギャップ

ら優勝。直近では2017年1月に始まつた夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間ににおける3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行なう。<http://marketbank.jp>

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まつた夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間ににおける3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行なう。<http://marketbank.jp>

# 売り投機で需給相場発生



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

の拡大が今後発生することを意識して、物価連動債は逆に冴えない動きにならないと整合性がとれない。

しかし、現実は真逆である。つまり、今回の急落相場もリセッション・リスクがベースにあるのではなく、需給相場、つまりマーケット・リスクであるボラティリティの上昇がもたらしている影響の方が圧倒的に大きいのだ。米金利とドル円の連動性が高まっているので、日本株は円高リスクも意識されやすいが、グローバル経済懸念が乏しいなかでの円高は、実体経済へのマイナス要因よりもプラス要因の方が実は大きい。円高がリスクとして認識されるのは、常にグローバル経済の悪化が背景にあるからだ。以上のことを考えれば現在の急落局面は絶好の買いチャンスなのである。

潮流銘柄はAKIBAホールディングス（6840）、システム情報（3677）、ユーザーベース（3966）。



# チャートから読む 脱落銘柄

アミューズ(4301)



3月11日の年初来安値2283円に接近したところで出来高を伴い反発。イベント好調で20年3月期予想を増額、買い残減少から貸借倍率は1.08倍へと好転し、7月の2600円揉み合いゾーン抜け期待。

ラクス(3923)



1Q高進捲を好感、2カ月半におよぶ2600～2800円の高値保ち合いを上放れる。収益上振れ期待に加え、信用倍率0.39倍、貸借倍率0.02倍の好取組も株価を押し上げ、青空相場を一段高へ。

オンキヨー(6628)



7月22日には86円まで戻したもの、その後は下落基調が続き、50日線割れまで売られる。2422万株超の買い残も重石で、中期的には6月の揉み合いゾーンである40円台までの下落も懸念。

東邦チタニウム(5727)



20年3月期1Q大幅減益と通期下方修正を嫌気、マド空け急落のあとも下値模索が続く。底割れ状態で連日の安値更新。押し目買いに信用買い残が積み上がるなど需給も重く、手じまい売りに一段安も。

※チャートは日足

# 今週の

# 活躍期待 銘柄



## シップHD(3360)

# 大型案件計上で上ブレ期待

予想の185億円（前期比3・1%増）は上ブレ期待が高まる。バンガラデシュの病院事業は20年5月に本格開業を予定しており、昨年開業の大坂重粒子線センターを含めて中長期的にも業績拡大が続きそうだ。（と）

シップヘルスケアホールディングス（3360）は目立たぬながら1月4日安値3795円を底とした長期的な上昇基調を継続。全般波乱相場下でも8月2日の最高値5000円更新後も底堅く、貸借倍率0・51倍の好需給からも押し目買いで対処したい。

医療機器に加えて調剤薬局や介護付き有料老人ホームを兼営。20年3月期は第1四半期（4～6月）の連結営業利益で30億3000万円（前年同期比10・2%増）と2ケタ増益を達成、第2四半期には病院建て替えの大規模案件が計上見込みと言われており、通期

# バングラデシュで病院開業へ



santec (6777)

## 1Q営業利益4.7倍で高進捗

12.6%増)に対する1Qの進捗率は83.5%に達し、大幅な上振れが期待できる状況だ。コアの光薄膜技術を応用した可変光減衰器や光コヒーレンストモグラフィなど新規事業への期待も強い。(さ)

santec(6777)は  
1300円割れで下値を固め、  
3月に付けた年初来高値23  
28円奪回に向かつてきた。  
20年3月期第1四半期の  
連結決算は、売上高14億3  
900万円(前年同期比39.  
9%増)、営業利益2億380  
0万円(同4.7倍)と大幅  
增收で利益が急拡大した。光  
部品は光モニタ、光アシテネ  
ータが引き続き好調、光測定  
器は医療向けOCTシステム  
やOCT光源が欧州で大きく  
伸び、収益をけん引している。  
外部環境が不透明で第2  
四半期累計、通期は期初  
予想を据え置いたが、2  
Q計画の営業利益2億8  
伸びる

光部品、光測定器大きく伸びる

\*チャートは日足

# 高野恭壽の 株式情報

これでどや!!

# 徐々に盛り上がる展開



株式市場新聞の名物コーナーが復活！

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30力条」など著書も執筆。

トランプ大統領のツイートに端を発した7月31日からの急落もようやく沈静化してきたと思つていましたが、8月第3週

ク市場は第4弾の対中関税の一部延期が伝わると13日には急伸する場合がありますが、翌日の14日には米長短金利の逆転が嫌気され、ダウは800ドル安と今年最大の下げ幅を記録。15日は米経済指標の内容がまちまちでNYダウは99ドル高で引けており、週末の東京市場も続落での寄りました。

# アンジェスの戻りに期待

先物を通じた仕掛け的な動きで過度に指數は乱高下してしまったが、仮に更に下落する場面があつても押し目買いの意欲は高まると思つていますので、上下どちらに振れるにしても盛り上がる展開を予想しています。

小物ではテックファーム（3625）が決算内容を嫌気して弱い動きとなりました。戻り待ちで一旦、処分することもやむを得ません。新たな期待銘柄に乗り換える作戦で挽回する必要がありそうです。アンジエス（4563）は引き続き値を維持するなどしつかりした動きにありました。エボラ出血熱の拡大で

ますと、現状の景気の堅調さと先行き懸念との綱引き状態になつております。基本的に国株式は戻り売り状態の雰囲気になつています。FOMCでの次の利下げ動向や米中間題でのトランプ大統領のツイートなど何らかのキッカケ待ちとなります。

今回の狙いは野村ホールディングス（8604）と住友金属鉱山（5703）です。金融ではアルアイフ（8515）

一ジ 高野恭壽公式ホームページ

高野恭壽の株式市情報」  
れでじゃー！  
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

毎日情報を配信中…

準です。  
える水  
面は狙  
も22  
0円場  
515）  
アル  
アイフ  
（8  
5703  
山（5  
グス  
（8604  
山（5703  
です。

対して同社が開発する治療薬に期待が集まっています。これに加えて遺伝子治療薬の製造開始も9月ごろに期待がされており次第にそれを材料視して戻す動きが強まっていくものと思われ



金の問題以前に高齢に  
ことも多い。たゞ、韓  
金を昨年16・4%  
も引き上げた結果、  
失業率が過去最大に  
なった例もある。公  
平かつバランスある  
ものが求められる。



ことを実感した。因みに大阪では時給1000円で募集しているところが増えてるが、ネガティブな話題が多い某コンビニでは最低賃金で募集しているところもあるので、仕事の内容を勘案する必要があるものの、同じ地域でも格差がある。

# 星野三太郎の 株街往来

## ～賃金の地域格差～

## ～賃金の地域格差～

介護の仕

企業レター

東レ

世界最高レベルに高める  
超高透水性N-F膜を創出

東レ（3402）は従来品以上の優れたイオン・有機物の分離性能を持ち、透水性能を3倍に高めた世界最高レベルの超高透水性ナノろ過（NF）膜を創出した。

NF膜は、水中に溶解している特定のイオン・有機物は透過し、それ以外は透過しない選択分離性を持つている。同社では透水性能向上に寄与する膜の構造形成メカニズムを極限追求し、N

上の優れた選択分離性能を持ち、従来比3倍の超高透水性を実現。今後需要拡大が予想されるリチウム資源に対し現行の塩湖回収プロセスに適用するこ<sup>と</sup>により高効率かつ低コストにリチウムを回収可能と考えてい<sup>る</sup>。

従来水処理用途に加え、資源回収、バイオリファイナリーなど特殊用途での利用が期待され、3年以内の実用化を目指し、開発を加速していく。

## 平鋼を集成材で座屈拘束

大和ハウス工業

## 日本初の木鋼ハイブリッドブレース



## 木鋼ハイブ リッドブレース

同社は、日本初の拘束材に集成材を用いた座屈拘束ブレース「木鋼ハイブリッドブレース」を開発。この技術は、地震力に抵抗する平鋼の芯材を集成材の拘束材で補強することにより、地震時に圧縮力がかかるつても座屈せず、優れた耐震性能を發揮できるブレース（筋かい）。「木鋼ハイブリッドブレース」は、拘束材にヒノキやカラマツなどの木質材料を用いることで、鉄骨造でありながら、座屈拘束材である集成材を現しにすることができる。木のぬくもりを感じられる空間を演出することができる。

## 日経225先物日足チャート



純利益段階で前年同期比3%と3年ぶりの減少となり、通期予想でも3%の減少を想定している。世界的に景気後退に入っているなかでは株価も戻り売りの状態が続くと思われる。チャート的には移動平均線が短期、中期、長期とも下落してきている。特に今年は200日移動平均線を少し超えたと

## 今週のスケジュール

- ・ 16日 米7月住宅着工件数(21:30)  
米8月ミシガン大学消費者マイ  
ンド指数(23:00)
  - ・ 19日 7月貿易統計(8:50)  
7月首都圏新規マンション発売  
(13:00)
  - ・ 20日 20年国債入札
  - ・ 21日 7月訪日外客数  
日中韓外相会談開催予定(北京)  
米7月中古住宅販売件数(23:00)
  - ・ 22日 6月全産業活動指数(13:30)  
米7月CB景気先行総合指数  
(23:00)  
米経済シンポジウム開催、テー  
マは「金融政策における課題」  
(～24日ワイオミング州ジャク  
ソンホール)
  - ・ 23日 7月消費者物価(8:30)  
米7月新築住宅販売件数(23:00)

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

**敏腕先物元**  
**八千**  
お盆休みを迎えていた先週の日経平均は海外発の材料で乱高下、2万500円を挟んで方向感のない動きとなつた。米通商代表部(ＵＳＴＲ)が9月1日に発動を決めた中国製品に制裁課税「第4弾」でパソコンなど一部の製品に対して発動を12月15日まで延期すると発表し、NYダウが大幅高とな

つた。

しかし、米国の長期債利回りが短期債利回りを下回る「逆イールド」現象が出 現した。この現象は近い将来景気が後退するシグナルとして知られているが、今回は英國や香港、ノルウェーでも出現しており、警戒感が台頭、水曜日にはNYダウは800ドル安と今年1番の下げ幅となつた。

一方で下値は2万円を意識した動きとなつてゐる。月足で見た下値抵抗ラインは1万9716円、上昇トレンドの最後の抵抗ラインであるため、この水準は重要である。RSIやストキャストなどは売られ過ぎのサインを出しており一旦は下げ止まるとは思うが日経平均は上昇トレンドの正念場を迎えて いるといえよう。「戻り売り」の戦略継続である。(ハチロク)

日本は平年よりかなり気温が高くなる見込み、9月に入つても暑さが続き夏は終わらないらしい。週明け以降、平年より気温が高い確率は関東甲信・東海で70%、近畿・四国・九州などで60%という。

逆イールドによる波乱にも底堅さを見せた東京市場だが、強い動きを続けてきた中小型株に急落する銘柄が目立つ。自身も相場も夏バテに注意が必要のようだ

正念場を迎える日経平均

## 編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。